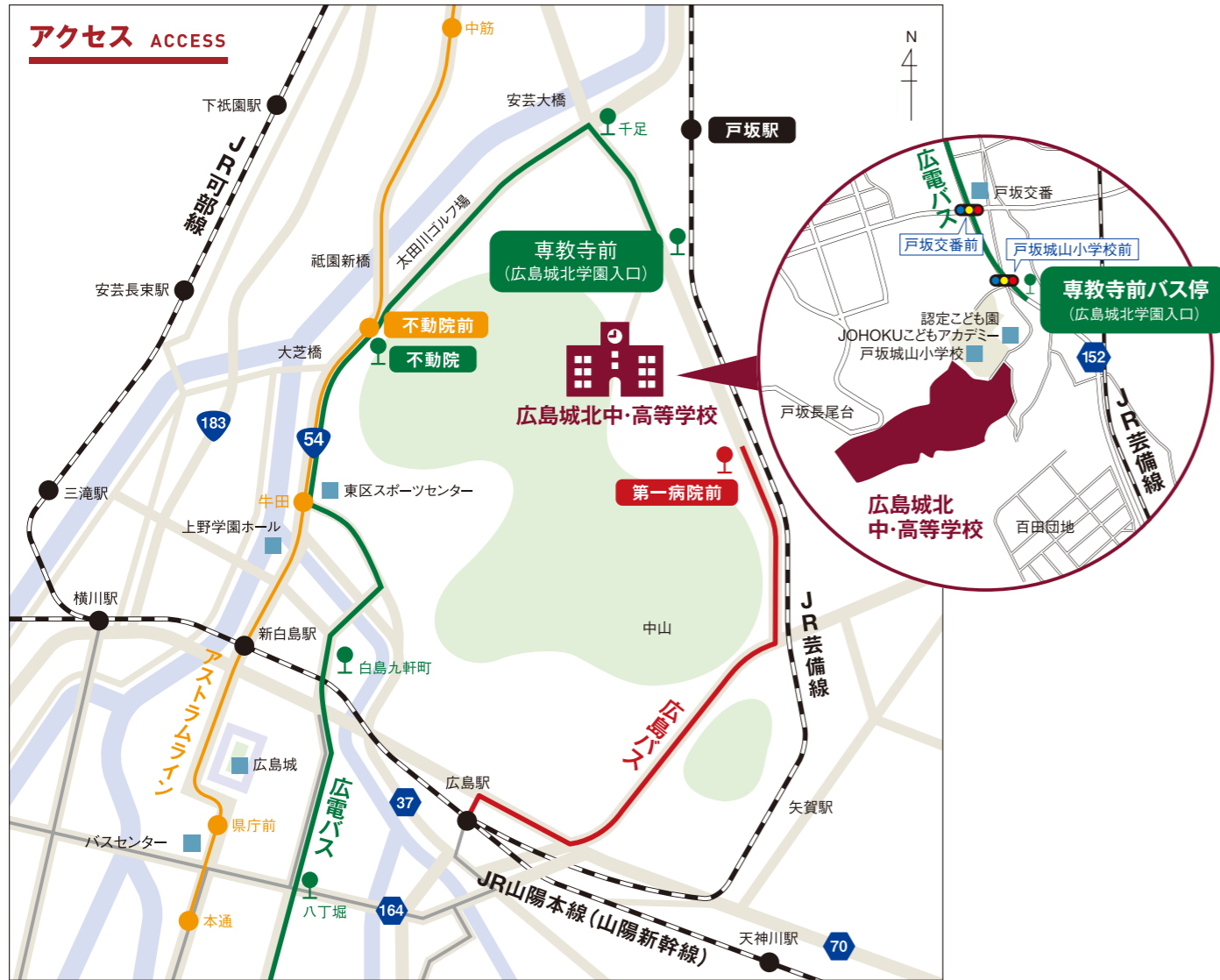


医師を志す君へ



交通手段	乗車ルート	学校最寄駅	徒歩
JR	広島駅から約10分 芸備線	戸坂	約15分
広電バス	八丁堀から約25分 12号線 八丁堀経由東浄小学校前行き	専教寺前 (広島城北学園入口)	約3分
広島バス	広島駅から約20分 27号線 広島駅発戸坂東浄団地行き	第一病院前	約15分
アストラムライン	不動院前 → 乗換 → 広電バス → 不動院 → 乗換(12号線) → 東浄小学校前行き		



学校法人 広島城北学園

広島城北中・高等学校

HIROSHIMA
JOHOKU
GAKUEN

〒732-0015 広島市東区戸坂城山町1番3号 TEL.082-229-0111 FAX.082-229-0112
1-3 Hesaka Shiroyama-cho, Higashi-ku, Hiroshima 732-0015 Japan
<http://www.hiroshimajohoku.ed.jp/school/>



医学科進学コース



医師になる!!

という明確な目標に向かって一日でも早くスタートが切れたら…。
「師弟同行」の城北が、医師を志す君を全力でサポート!
多くの卒業生の声を受けて、国公私立医学科進学を目指す
「医学科進学コース」が令和3年度より開設されます!



MESSAGE

01

広島大学
医学部医学科4年
広島市立古市小学校出身

内田直幸さん [51回生]

生徒一人一人と真摯に向き合ってくれる城北。

城北を卒業して4年以上経ちましたが、今でもふと、あの頃の日々を思い出します。城北生であった6年間は、それだけ自分にとって濃い時間だったのだと実感します。

私には中学生の頃から医師になりたいという夢がありました。その夢に向かって努力しようと思っただけでしたが、なかなか上手くいきませんでした。多くの生徒と同じように誘惑に負け、自分をうまくコントロールできなかったからです。そんな自分を変えたくて、学年主任をされていた先生の元へ、自分が怠けず勉強するように見張ってくださいとお願いをしに行った日のことを鮮明に覚えています。

それからおよそ三年間、手帳に勉強時間を記入しては先生に見てもらい、アドバイスを頂く日々が続きました。ある日、先生になぜ医師になりたいのかと問われ、自分の考えを話したところ、志の甘さを厳しく叱られました。そのおかげで、自分はなぜ医師になりたいのか、どのような医師になりたいのかを心に問い直し、考えを改めることができました。私が本当に変わったのはこの時だったと、今振り返ってみて思います。

勉強面でも、各教科の先生にお願ひし、苦手な単元の演習や、英語で書いた日記の添削などといったことをしていただきました。当時の私はそれらのことを当たり前のことだと思っていました。そう思うほど、城北では先生が生徒一人一人と真摯に向き合う姿が日常的な光景だったのです。卒業して初めて、城北のような手厚いサポートは、他では当たり前のことではないと知りました。城北に入学していなければ間違いなく今の私はありません。みなさんもぜひ、城北の先生方のサポートで医師になるという夢をかなえてください。

学不厭教不倦

学んで厭かず、教えて倦まず

開校以来、城北教育の根底に脈々と流れ続ける「師弟同行」の教育理念。「面倒見の良い城北」と言われる所以がここにあります。私たちは決して見放しません。



私立だから

温故知新

他校に先駆けてICTもアクティブ・ラーニング(AL)も導入済みの城北。だからこそ大切にするのが、古き良きチョーク&トークの授業。生徒と教師が本気でぶつかり合い、すべての土台となる知識・技能を習得する城北伝統のスタイルです。



MESSAGE
02

新田小児科医院 院長

岩手医科大学医学部医学科卒
広島市立三篠小学校出身

新田哲也さん

[30回生]



生徒と先生が成長し合う環境がある。

城北では自然に囲まれた環境で教育熱心な先生方にご指導を頂き、とても充実した学生時代を過ごしました。電車通学であったため、友達と一緒に英単語の暗記や試験前には定期試験の詰込みをしながら通学したことをよく覚えています。部活動はワンダーフォーゲル部に所属していました。週末に山歩きをして、顧問の先生方と勉強だけでなくいろいろなことを雑談しつつ足腰を鍛え、動植物の観察や野イチゴ狩りをして自然にふれあうことのできる楽しい部活でした。授業も生徒と先生の距離がすごく近く、先生の色が出たユニークな授業で意欲的に学べました。「学んで厭かず、教えて倦まず」の校訓のとおり、城北には生徒と先生が垣根なく議論し合い、学び、成長し合う環境があります。

昨今様々な分野でコミュニケーションの欠落が問題となっていますが、現在医学部を受験する上では面接がほぼ必須となっています。知識や技術はもちろんですが、それ以上にコミュニケーション能力が医師には欠かせません。たとえ病気のことが分かっても、患者さんと話し合い、お互いを理解し、情報共有ができていなければ、治療も当然難しくなってきます。医学教育の場でも「師弟同行」を校風に様々な状況において対応できる医師の育成を目指す大学もありますが、そのような能力を培うにも城北はとても良い環境だと思います。

現在は父の後を継ぎ、広島市西区横川町で小児科を開業しておりますが、社会人になってからも母校を卒業された先輩や後輩の先生方と出会う機会が多く、診療をする上で協力し合うこともあれば、上下関係問わず助言を頂く機会もあり、城北の人脈に感謝しております。また、他の分野で活躍されているOBに助けられることも多々あり、城北OBでよかったと実感しています。この度医学科進学コースが設置されるとのことですが、医師を志す生徒が増え、ますます母校が発展することを祈念しています。

男子校だから

男子が成長できる環境

思春期男子特有の成長課題を熟知した教職員がそろっている城北。男子の成長曲線に配慮した手法・プログラムがあります。何より大事にするのは、男同士の競い合い・協力・励まし・支え合いです。



MESSAGE 03

医療法人水入クリニック 理事長・院長

広島大学医学部医学科卒
広島市立大町小学校出身

水入寛純さん [25回生]



個人のペースを大切にしてもらえる指導。

私は現在開業医をしています。医師の家系でもない私が医師を志したのは、「人の話に傾聴する」という性分がきっかけです。高1になって突如親友が勉強するようになり、私の中に「置いて行かれた! 僕も頑張ってみよう」という気持ちが芽生えました。まずは得意科目であった数学から手を付けることにしました。私はマイペースな性格で他人に合わせるができなかったため、大手の塾のような大人数でどんどん進んでいく授業がとても苦手でした。ですが、城北の先生には自分のペースで立ち止まって考えることを理解していただき、日にちや時間を問わずご指導いただき、本当にありがたかったです。一つ自信を持って臨める科目ができたなら、次は英語、その次は国語、理科、社会といった風に他の科目も徐々に成績が上がっていきました。切磋琢磨していた親友は高3の秋に推薦で早々に進路が決まりましたが、自分を高めてくれたことにとても感謝しています。

開業してからは、地域のかかりつけ医として内科・外科・在宅医療を中心に診療していますが、一方でその地域に住む住民として、勤務医時代よりも近隣の方々との関係はより密接となり、うまくコミュニケーションをとりながら町内会活動も行っています。

私が高校生の頃は、まさか将来開業医になっているとは夢にも思っていませんでしたが、城北で過ごした6年間は、その後の自分の人生に確実に影響がありました。一つは夢の実現のために諦めないこと、そしてなにくそというハングリー精神です。城北は医学部進学を目指す生徒に対し、偏差値や家系に関係なく、医師になるイメージを持たせてくれます。今回設置されたコースには、学力やモチベーションを高めるための様々なカリキュラムやイベントも用意されています。みなさんも城北で医師を志してはどうでしょうか。

中高一貫だから

学力の早期完成を目指す3段階の学習指導

わからないことを放置しない。中1から丁寧に積み木を重ねていくように、大学入試の土台をつくっていきます。落ちこぼれをつくりません。



① 中学校3年間は学習習慣と基礎学力の定着を図ります。

② 高1・高2で高校履修内容を終わらせます。

③ 高3では一般選抜に向けた問題演習に加え、総合型選抜や学校推薦型選抜に向けた面接や小論文演習にも力を入れます。

④ 理系進学コースに比べて数学・理科・英語の学習時間を増やします。
豊富な演習量で、医学科の一般選抜に対応できる学力を付けていきます。

⑤ 高3には私立医学科の受験に対応するための3教科コースを設置。
数学・理科・英語に絞り、基礎から発展まで丁寧な学習に取り組めます。



MESSAGE 04

川崎医科大学
医学部医学科3年

私立安田小学校出身

佐々木俊輔さん
[51回生]



同じ志をもつ仲間と過ごした6年間。

私には中学生の頃から医師になりたいという夢がありましたが、自転車競技部に所属し、全国大会を目指して取り組んだことで、中学2年生から高校3年で引退するまでは、勉強がかなりおろそかになっていました。引退後に気持ちを切り替え、受験勉強を始めようとしたのですが、何から手を付けてよいのかわからない状態でした。そこで、担任の先生に相談しようと職員室に足を運びました。担任の先生はとてもユニークな方で、いつも気軽に話しかけてくださっていたので、私も緊張することなく相談できました。

先生は私に、無計画に毎日やみくもに勉強するのではだめだと話してくださいました。そこで、毎日どの教科をどれだけ勉強するのかを先生と話し合っただけで決め、学習状況を毎日手帳に記録し、先生にチェックしてもらうことにしました。焦って難しいことをやるよりも、しっかり問題を読むことや基礎的なことを確実にできるようにすることが大切と言われ、受験まで同じ問題を何度も繰り返し解き完成度を高めることを目標にして取り組みました。私は相談することがあまり得意ではなかったのですが、担任の先生以外にも多くの先生が親身になって相談に乗ってくださいました。

また、城北には同じ志をもった仲間がたくさんいます。浪人時代は苦しい時もありましたが、彼らと共有した学校生活を思い出しながら自分を奮い立たせ、合格まで頑張り抜くことができました。彼らと過ごした中高6年間は、私の人生の糧となっています。

城北には医学科進学にとって最高の環境が整っていると自信をもって言えます。みなさんもぜひ城北で同じ志をもった仲間と巡り合い、切磋琢磨することで希望進路を実現させてください。

医学科進学コースだから

①「自ら学ぶ姿勢」を育てる平日放課後の「アクティブ・ラーニング」

ただ教えられたことを学ぶだけではない。様々なことに興味をもち、自ら学ぶ姿勢が医師には求められます。授業ではできないようなことも、放課後であれば何でもできる。様々なアクティブ・ラーニング(AL)で生徒の興味関心を掻き立てます。



中1 [進学] コース時間割例

	月	火	水	木	金	土
朝読書・SHR						
1	理科1	数学	技術	LHR	地理	英語
2	歴史	DISCOVERY	剣道	DISCOVERY	数学	数学
3	道徳	国語B	数学	保健体育	英語	国語A
4	英語	保健体育	英語	理科2	国語A	理科1
昼休み						
5	数学	英語	地理	書写	家庭科	
6	音楽	歴史	国語A	国語B	美術	
7					理科2	
暮会・掃除						

中1 [医学科進学] コース時間割例

	月	火	水	木	金	土
朝読書・SHR						
1	理科1	数学	技術	LHR	地理	英語
2	歴史	DISCOVERY	剣道	DISCOVERY	数学	数学
3	道徳	国語B	数学	保健体育	英語	国語A
4	英語	保健体育	英語	理科2	国語A	理科1
昼休み						
5	数学	英語	地理	書写	家庭科	
6	音楽	歴史	国語A	国語B	美術	
7	アクティブ・ラーニング(AL)				理科2	
放課後						

学習習慣・基礎学力を定着させる教科ALだけでなく、実験やフィールドワークなどの思考力・判断力を高める探究ALや、表現力・行動力を身につける総合ALに全員で取り組み、学力の3要素の育成を図ります。 ※所属できる部活動は限定されます。



医療法人社団ライフアスリート
高陽整形外科クリニック
理事長

福岡大学医学部医学科卒
広島市立長束小学校出身

今田岳男さん
[16回生]

担任の先生のおかげで得意科目ができた。

私は中学校に入学してから高校1年までサッカー部に所属していましたが、高1の2学期に「受験勉強する」と決意し、クラブを引退しました。高校3年間は数学の先生に担任をしていただき、そのおかげで私の得意教科は数学となりました。その先生から「お前数学だけなら医学部受かるでえ」とおだててもらいました。

数学以外得意科目のなかった私は、高2の時点で受験校を私立医学部に絞り、数学と理科を徹底的に勉強しました。その甲斐あってか、現役で福岡大学医学部に合格することができました。合格の報告をするために職員室の扉を開けると、先生が駆け寄ってきて「ようやったの」と声をかけてくださり、他の教科の先生に「どうですか岳男は合格すると言うたでしょうが」と誇らしげに話されている姿を見て、私は先生のためにも合格できてよかったと感じました。

大学卒業後は広島大学整形外科学教室に入局し、平成6年より23年間サンフレッチェ広島のチームドクターをやっておりました。現在はスポーツ整形外科クリニック理事長として、ジュニア世代から高齢者のスポーツ愛好家の方々まで幅広く診療させていただいております。現在の自分が存在するのも、「数学だけなら医学部合格する」という恩師の上手なおだてのおかげと感謝しております。

医学科進学コースだから

②「医師に求められる公共心」を涵養するイベント

城北が大切にする「心の教育」。NPO法人モーストをはじめとする外部団体とも連携し、様々なプログラムで医師に求められる公共心や倫理観を涵養します。

- NPO法人モーストによる「マルセル・ジュノー博士」講演会 (中1)
- 中山間地域や島嶼部の医療現場を見学・体験する修学旅行 (中3)
- 世界の医療事情を見学する海外研修 (中3春休み)
- 医療ボランティア活動 (中学・高校)
- 医療体験セミナー (高1)



MESSAGE
06

九州大学
医学部医学科1年
広島市立五日市南小学校出身

二宮響さん
[54回生]



志を明確にしてくれる城北の進路指導。

私が医師を目指そうと本格的に決めたのは高校2年の春でした。医師という職業に対して漠然とした憧れは昔からありましたが、医学科受験を決めたきっかけは、城北を通じて申し込んだ市内の病院での1日医師体験です。実際に最前線で働く人々の姿を見て、現役医師の話や聞く中で、自分も臨床医として人々の生活の手助けをしたいという風に思い、医学科を受験することを決めました。

現役時は、担任の先生の勧めで一般入試とは別にセンター試験を併用した推薦入試も受験することにしました。先生方には志望理由書や面接練習をしていただきました。教科や学年団に関係なく、様々な先生に貴重な意見を頂きながら、万全な対策をすることができました。残念ながら推薦入試は不合格となってしまいましたが、この対策を通して「なぜ自分は医師になりたいのか」「医師になってどのような社会貢献ができるか」を真剣に考え、自分を見つめ直すことができました。この経験があったことで、二次試験の面接でも自分の考えをしっかりと話すことができましたし、「どうしても医師になりたい」という強い意志をもち続けることもでき、諦めず志望を貫くことができました。

現役時の失敗から学んだこと活かし、1年間の浪人生活を経て九州大学医学部医学科に合格することができましたが、「1年間浪人すれば嫌でも学力が上がる」というのは全くもって誤りです。現役時よりもレベルの高い大学を受験できたのは、城北の先生方から教わった勉強に取り組む姿勢で1年間過ごせたからだだと思います。医学科受験は想像以上に厳しいものです。皆さんには城北を信じて医学科合格を掴み取ってほしいと思います。

医学科進学コースだから

③医学科進学に必要な情報提供のための講演会

特に私立大学医学科は入試に関する情報量が合否に大きく影響します。医系専門予備校とも連携し、定期的に必要情報を提供します。



④「受験は団体戦」同じ目標をもつ仲間と学習合宿

長期休業中には全員で3泊4日の学習合宿を行います。教員だけでなく卒業生もアドバイザーとして参加。医学科合格のための学習アドバイスや大学での学びなど、いろいろなことを教えてもらえます。きつい自学自習にも仲間と励まし合いながら取り組み、自分の学習スタイルを確立していきます。



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
レジデント

東京大学医学部医学科卒
私立広島三育学院小学校出身

工田啓史さん
[45回生]



城北という環境だからこそ、東大理三現役合格。

私は現在COVID19（通称：新型コロナウイルス感染症）真っ只中の病院で診療を行っております。大変な時期ではありますが、乗り越えられると信じ、日々変わる情勢を考えながら治療を続けています。

私が卒業するまで、卒業生に東京大学理科三類の合格者はいませんでした。そんな環境で私が現役合格できたのはなぜかとよく聞かれることがあります。いろいろな理由があるとは思いますが、その一つの理由は間違いなくこの広島城北中・高等学校という環境であったと思っています。

先生方は通常の授業だけでなく、過去問に対する指導や自身の疑問に対して真っ向から向き合ってくれました。それは、どう考えても非常に大変な作業であったことは間違いありません。どのように行うべきかのノウハウもない中、ともに悩み支えてくださったことは、間違いなく合格の一助になりました。また、同級生の方々はそんな私を受け入れ、ともに切磋琢磨してくれました。前人未到の事項に挑むことをただただ応援してくれたみんなの存在があるからこそ、今の私はここにいるのだと思います。

もちろん勉強は究極一人で行うものです。医学部生は医師になってからも学習が続く以上、他者に頼らない環境で学習ができなければ意味がありません。しかし、長い中高生活の間には辛い時や足りない時が必ず訪れると思います。そんなときに、城北はあなたの夢を応援するところであり、あなたの限界を超える手助けとなる学校です。あなたも城北で限界のその先を目指してみませんか？

グローバルマインド

地球規模で活躍できる人間になるために、「グローバルマインド」を育む。

城北の目指す「グローバルマインド」は単なる「国際化」ではありません。自分自身を大切にするとともに、異なる価値観を尊重する寛容さを持つことです。

ディスカバリー



リラックスした環境の中、生徒が能動的に学びに向かう空気をつくる。

「ディスカバリー」は他の授業とはまったく異なります。タブレットを使い教員が出すテーマに沿って一人で情報収集することもある、グループでワイワイ企画を立てたり、ディスカッションをすることも。ある時はみんなの前で自分の夢についてプレゼンテーションし（もちろん英語で）、またある時は音楽の授業と連動して英語の歌詞の意味について考えてみたりします。ここで大事なのは、あくまで主役は生徒で教師はガイド役ということ。教師は生徒が自主的に行動を起こし、自由に発想を広げるためのサポート役に徹します。まさにリラックスした環境の中で、生徒たちが能動的に学びに向かえる空気感が作られているのです。

城北で誕生したオリジナルプログラムはすでに確立され、日々進化し続けています。他のどこにもないこの授業、あなたも受けてみたいと思いませんか？



POINT 1 4人の専任
ネイティブスタッフ

ディスカバリーは本校のネイティブスタッフたちが話し合いを重ねて作ってまいりました。オールイングリッシュで、1人の教員が生徒約20人を担当します。日常的にネイティブスタッフと言葉を交わすことで、表現力はもちろん英語力、英会話スキルも自然に磨かれていきます。



POINT 2 ICT機器を
「普段使い」

テーマに関する情報収集からプレゼンテーションのための資料作成まで、授業にタブレットは欠かせません。授業を通してネットリテラシーについても学習。ICTを学ぶのではなく、学びの中でいつのまにかICTを使いこなしています。



POINT 3 ディスカバリー
ルーム

授業を行う「ディスカバリールーム」は他の教室とは違う雰囲気。カーペットが敷かれ、ソファが置かれるなど自由な空間を演出しています。外国の友達の家を訪ねたようなムードを作ること、生徒が自分の意見を積極的に発言できるよう工夫しています。



POINT 4 独自の英語力

高校で実施される城北独自の英語コミュニケーション能力テストがCST (Communication Skills Test)。外国人教員と1対1で向き合い、質問に答えたり会話を繰り返しながら生徒の英語力を評価します。コミュニケーション能力に重点を置いていることが特徴です。



海外姉妹校・研修提携校

大韓民国・大邱広域市 啓聖高校 姉妹校

平成22(2010)年に啓聖高校で、翌年に本校で調印式を行い姉妹校になりました。生徒の派遣と受け入れを1年ごとに行います。

オーストラリア・ブリスベン モートンベイボーイズカレッジ 提携校

平成29(2017)年に交流が始まった現時点で最新の提携校です。城北と同じ男子校で、現在500人の生徒が通っています。

オーストラリア・メルボルン ヤラバレーグラマースクール 姉妹校

平成15(2003)年に広島市長、およびオーストラリア大使参事官立ち会いのもと調印式を行い姉妹校になりました。

イギリス・クライストチャーチ ハイクリフスクール 提携校

平成14(2002)年に交流が始まったイギリス南部にあるハイスクールです。特に語学部門に力を入れています。



医療法人社団和風会
広島第一病院
理事長

昭和大学医学部医学科卒
私立広島三育学院小学校出身

松岡龍雄さん
[26回生]

目標へのサポートが充実している城北。

私は現在、広島城北学園の近く東区戸坂にて、祖父の開院した広島第一病院の院長として地域精神医療に携わっています。

私は文系科目が苦手であったため、高校入学当初より私立大学を目指して勉強しました。数学や英語は、授業で分からなかったことや模擬試験で間違った問題などがあると、放課後に職員室に行って納得ができるまで教えてもらったことをよく覚えています。先生方に医学科進学のことを伝え、合格に向けて課題を提示していただいたり、添削をしていただいたり、きめ細かなサポートをしていただけました。先生方のおかげで、大学受験では納得のいく結果が出せたと思っています。

医師になるためには勉強に注力することが必要な時期があります。しかし、医師になってからは、それまでの様々な人生経験や人間関係、友人との付き合いが、診療の幅を豊かにしてくれます。城北での6年間で作り上げた経験は、現在の自分の診療には不可欠なものとなっています。

息子は現在、城北高校1年生です。昨年は城北の国際理解教育のプログラムで、オーストラリア・モートンベイボーイズカレッジからの留学生をホームステイで受け入れました。最初は英語で話すのも恐る恐るでしたが、最終日には二人で楽しそうに話していました。英会話の自信もつき、夏休みには英語の話せない祖母の通訳として二人でカナダ旅行に行き、とても良い経験になったようです。城北は目標に向かうサポートをしてくれるだけでなく、多くの仲間と様々な経験ができる素晴らしい環境が整っていると、親子共々実感しています。

山紫寮

「通学が困難な生徒を受け入れる寮」から「学びの姿勢を育む寮」として生まれ変わりました。

寮は学園敷地内にあり、7階建て全95室は完全個室。バランスのとれた食事はもちろんのこと、3時間の自習時間などで生活リズムを整えます。



↑居室



↑外観



↑自習室



↑寮生食堂



↑浴室



↑トレーニングルーム

MESSAGE
09

広島大学
大学院医系科学研究科
教授

広島大学医学部医学科卒
三次市立三次小学校出身

田邊和照さん
[23回生]

INTERNATIONAL
STRIC CANCER COM
C 2019



山紫寮で出会えた仲間たちのおかげ。

現在は広島大学病院で消化器癌を中心にロボット手術など最先端外科治療を行いつつ、医学部保健学科において学部生・大学院生の教育も行っています。医師になり今年で既に27年目となりますが、毎年大学入試の時期になると本学でも多くの医学部受験者に接する機会があり、よく自分の中高生時代や大学受験の頃を思い出します。

私は県北の三次市出身で、中学1年から山紫寮で生活していました。私の家族・親戚には医療関係者は特におりませんでした。当時読んでいたブラックジャックの漫画などの影響で、中学受験をする頃からなんとなく医師、特に手術を行う外科医になりたいと思っていました。そんな思いをずっと持ち続けて広島大学医学部に現役合格でき、実際に外科医となれたのも、山紫寮での生活や城北で出会った仲間たちのおかげだと思っています。親元を離れて6年間の生活は、はじめは心細かったりしましたが、同級生や先輩方とは大きな家族のような感じで、学業だけでなく社会生活についても多くのことを教えていただきました。医学部を目指す人も多かったのも、それを実現するために何が必要かなど情報交換をしたり、切磋琢磨できたことも大きかったと思います。勉強でわからないことは職員室に何度も聞きに行き、その度に時間を割いて丁寧に教えていただいたことなど、先生方の支えも途中で挫折せず夢を貫けた理由の一つです。

広島城北中・高等学校での6年間のおかげで、今でも大事な多くの仲間巡りに巡り合えました。城北は自分の夢にチャレンジし、実現するのに十分な環境が整っています。どんな夢でも持ち続けたいと実現しませんし、行動するのはあなた自身です。その夢をぜひ城北で実現してください！

施設

緑あふれる広大な敷地に充実した設備を整備

高いデザイン性を誇る校舎が城北健男児を育みます。



↑管理棟／職員室



↑西棟／普通教室(中学生)



↑西棟／食堂



↑管理棟／コミュニティスペース



↑芸術棟／音楽室



↑北棟／図書館



↑管理棟／生物実験室



↑鯉昇館／メイプルホール



↑鯉昇館／Discovery-ε



↑テニスコート



↑サッカーグラウンド



↑体育館

MESSAGE 10

福岡大学医学部
心臓血管外科学
教授

福岡大学医学部医学科卒
私立安田小学校出身

和田秀一さん
[19回生]



城北健男児の精神が「生きる力」を育む。

私は福岡大学で心臓血管外科医として勤務しております。心臓血管外科は外科系の中でも特に激務な分野です。これまで海外を含む4つの大学病院等で勤務してきました。幾度となく困難な局面がありましたが、それらを乗り越えて現在に至るのも、城北健男児精神の賜物だと思っています。城北在学中に恩師から戴いた言葉は、今では私から後輩達に伝える言葉として引き継がれています。また、同業だけでなく異業種の同級生、先輩、後輩からも、社会人になった今でも支えていただいています。

城北の校風は決して厳格すぎるものではなく、それ故に自分で道を切り開いていく「生きる力」が生まれてくるのだと思います。現在、私の医局には約20～25年後輩になる2人の城北健男児が在籍しています。献身的に激務をこなし、スタッフや患者さんからの評判も非常に良い、自慢の後輩達です。この2人を見ていると、城北健男児精神は脈々と受け継がれているのだと確信します。

昨今、医学部は狭き門となっておりますが、医学科進学コース出身の医師が多く誕生することを願っております。がんばれ! 城北健男児! (城北健男児: 城北同窓生の通称)

年間スケジュール

高みを目指して励む日々と、刺激的で多彩な行事。
いつしかそれは、仲間たちとの一生の思い出になる。

	学校行事	進路指導行事	医学科進学コース
4 April	●入学式 ●新入生オリエンテーション ●クレバリン検査(中1・高1) ●課題テスト(中2・中3・高1・高2) ●面接週間 ●遠足 ●保護者懇談会 ●インドネシア・ラブスクール来訪	●学力推移調査(中学) ●ベネッセ記述模試(高3) ●立命館大学高大連携プログラム(高3) ●進路説明会(高校)	●学習合宿 ●GS測定テスト(中1)
5 May	●中間テスト ●球技大会 ●韓国・啓聖高校来訪 ●PTA総会 ●保護者懇談会	●ベネッセマーク模試(高3)	●マルセル・ジュノー博士講演会(中1) ●進路講演会(高1)
6 June	●実力テスト(中学) ●運動会(中学) ●体育祭(高校) ●オーストラリア・モートンベイボーイズカレッジ来訪 ●GTEC(高3)	●大学出張ナマ講義 ●ベネッセ記述模試(高校) ●進路講演会(高1・高2)	●保護者対象進路講演会
7 July	●期末テスト ●宿泊研修(中1) ●林間学校(中2) ●インドネシア・グローバルキャリアプログラム(高1・高2) ●オーストラリア短期研修(中3)	●進路説明会(高1・高2) ●夏季補習 ●三者懇談	●一日医師体験(高校) ●進路講演会(高3)
8 August	●夏季補習 ●課題テスト(中1～高2)	●夏季補習 ●全統マーク模試(高3) ●東大・広大オープンキャンパスツアー(高1) ●学習合宿(高1・高2) ●学力推移調査(中学) ●全統記述模試(高校)	●学習合宿 ●一日医師体験(高校) ●医療ボランティア活動(高校)
9 September	●文化祭 ●文化講演会(城熱大陸) ●オーストラリア・ヤラバレーグラマースクール来訪	●進路説明会(高3) ●大学出張ナマ講義 ●ベネッセ・駿台共催マーク模試(高3)	●進路講演会(中2)
10 October	●創立記念日 ●中間テスト ●PTA講演会 ●保護者懇談会 ●修学旅行(中3・高2) ●イギリス・ハイクリフスクール来訪	●進路講演会(高1・高2) ●大学出張ナマ講義 ●ベネッセ・駿台共催記述模試(高3)	●地域交流会(中2) ●進路講演会(中3)
11 November	●実力テスト(中学) ●インターナショナル・フレンドシップ・キャンプ ●GTEC(高1・高2)	●大学出張ナマ講義 ●ベネッセ・駿台共催マーク模試(高3) ●ベネッセ記述模試(高1・高2) ●全統マーク模試(高3)	●進路講演会(高2) ●保護者対象進路講演会
12 December	●期末テスト	●三者懇談 ●早稲田大学キャンパスツアー(高1・高2) ●答案練習会(高3)	●学習合宿
1 January	●課題テスト(中1～高2)	●答案練習会(高3) ●学力推移調査(中学) ●ベネッセ記述模試(高1・高2)	●GS測定テスト(中1・中2)
2 February	●マラソン大会 ●実力テスト(中学)	●ベネッセマーク模試(高2)	●進路講演会(中1)
3 March	●卒業式 ●学年末テスト ●イギリス短期研修(高1)	●学びみらいPASS(中3～高2) ●学習合宿ゼロ学期(中3～高2)	●海外医療見学研修(中3)

※医学科進学コース単独行事はすべて予定



MESSAGE 11

一般社団法人
広島市東区医師会
会長
医療法人社団
金谷医院
理事長

愛知医科大学医学部医学科卒
広島市立狩小川小学校出身

金谷雄生さん
[9回生]



医療に対する強い志をもってほしい。

この度、医学科進学コースが開設され、城北を卒業した医師の会である広島城北医会の一会員として、今後の活動に力が入ります。また、我々の子弟も安心して城北に入学させることができます。

実は私の息子も城北に入学し、現役で私立医学部に合格しました。現在は広島大学医学部大学院で研鑽中です。城北の学力を伸ばす教育方針、先生方の熱意のおかげで入学後に学力が伸び、現役合格につながったと親子共々感謝しております。(校訓：学不厭教不倦)

現在、医療の最前線でコロナウイルスと戦っている医療従事者の方には、唯々頭が下がる思いです。広島では多くの城北出身医師が医療と向き合っています。医療現場からは『鎧・兜(防護服・マスク)もなく、槍・刀(治療薬・ワクチン)もなく戦うのか』との声をよく聞きます。常に感染の恐怖に立ち向かいながら医療、看護、介護を行なっています。これは医療に対する強い志がなければできません。ただ勉強ができるからとか、経済的に恵まれるからとか、先生に勧められたからではなく、強い志をもっている生徒が医師になるべきです。城北の医学科進学コースは、医学科進学を希望する生徒たちにとって夢の懸け橋です。志をもつ生徒たちは必ず良い医師になってくれると確信します。

私事ですが、この度、広島市東区医師会会長に就任いたしました。城北も広島市東区にありますので、微力ではありますが、少しでも城北にご恩返しできればと思っております。

合格実績 (国公立大学医学部医学科)

年度	合格者数	年度	合格者数
平成13年度	21	平成23年度	7
平成14年度	7	平成24年度	17
平成15年度	13	平成25年度	8
平成16年度	15	平成26年度	19
平成17年度	11	平成27年度	10
平成18年度	18	平成28年度	8
平成19年度	9	平成29年度	13
平成20年度	17	平成30年度	6
平成21年度	14	平成31年度	10
平成22年度	18	令和 2年度	11



MESSAGE
12

東京医科大学
医学部医学科1年

広島市立白島小学校出身

詫間隆司さん
[55回生]



男子校ならではの友情は人生の宝物。

中学生の時は自分の進路についてあまり真剣に考えていませんでした。父が医師であることもあり、なんとなくは医師という職業を考えていましたが、医学部を目指してがんばるという感じではありませんでした。

高校2年生の時に、滑膜炎損傷で左膝の手術をすることになり、そのことがきっかけで本気で医師を志すようになりました。自分の決意が固まってからは勉強にも集中できるようになり、現役で医学部に合格することができました。本気で志した時期が遅かったので、現役合格は厳しいかなとも思いながらの受験勉強でしたが、城北での6年間の生活が心の支えとなりました。城北は勉強のサポートが手厚いだけではありません。医療倫理を考えさせる本を紹介してくださったり、実際に現場を見学できる場を用意してくださったりと、モチベーションの向上につながる様々なこともいろいろしていただきました。生徒の成長を長い目で見てくれ、夢の実現のために必要なサポートは何でもしてくれる学校だと実感しています。城北出身の先生も多く、城北愛に溢れていて家族のような親しみやすさがありました。

また、友達との競い合い・励まし合いも大きな力になりました。楽しく遊ぶだけでなく、「お前ががんばるから俺もがんばる」「俺もがんばるからお前もがんばれ」と、お互いを意識しながら努力する。何でも腹を割って話せる。男子校ならではの友情関係は間違いなく人生の宝物になります。

みなさんも一度しかない中高6年間の青春を城北に賭けてみてはどうでしょうか。

校長挨拶



広島城北中・高等学校 校長 岩本光彦

「医の心」を紡ぐ医師の育成へ

本校は59年の教育活動の中で「生徒一人一人が持つ可能性を最大限に引き上げる」ことを基本理念に掲げ、「英才教育」「人間教育」を積み重ねてきました。この理念を支えているのは、「学んで厭かず、教えて倦まず」の校訓です。生徒と教師が共に研鑽しあう「師弟同行」の教育環境を大切にするなかで、さまざまな人材を世の中に輩出してきました。

創立60周年を迎えるにあたり、さらに充実した教育内容を創造したいという強い信念のもと、このたび「医学科進学コース」を開設することといたしました。将来医学の世界に飛び込みたい、医師となってたくましく社会貢献したいという人材育成を進めます。

こうした人材を育成するために、中高一貫校男子校の強みを生かし、6年間かけて医学科への道筋を築いていきます。医学科に合格するために必要な、学力の早期完成を目指すことはもちろんですが、医師に求められる「自ら学ぶ姿勢」を育てる取り組みを充実させます。また、世界のボーダーレス化やグローバル化が急速に進むなか、医学界も同様に幅広い見識が求められる時代です。地域の介護施設を訪問する交流会、中山間地域や島嶼部の医療機関を見学する研修、世界の医療の現状を知る長期休業中の海外研修、病院での医療体験等々、6年の間に国内外の医療現場に足を運び、様々な体験をするなかから、自分はどのような医師になりたいのか、医師としてどのように社会貢献できるのか、と問い続け、熱い思いをもった集団に育てていきます。これまでにないコースとしてオリジナリティー溢れる医学科進学コースです。

子供たちは姿や性格が異なるように、これから未来に向かって伸びていく方向も千差万別です。それぞれの生徒が、自分の夢を追いかけて成長していく学び舎、それが城北です。本校医学科進学コースに入学することは、医師として社会貢献するためのスタートラインに立つということです。城北での学びや体験を将来にどう生かしていくか、6年間を通して深く考え、問いを立て、知的好奇心を膨らませ、まさに21世紀を牽引する力を着実に身に付けていくことを大切にしたいと考えます。

6年後、多くの生徒たちがそれぞれの思いで大学の門をくぐることを期待して、大海原に漕ぎ出す新コースの船出をしたいと思います。

建学の精神

英才教育の徹底

日本のみならず海外をも視野に入れた大学進学をめざす中高一貫教育の推進

道徳教育の徹底

個性が豊かで、自分や人を大切にする姿勢を持つ良識ある青少年の育成

錬身教育の徹底

質実剛健にして、心身ともに豊かさを自ら育もうとする青少年の育成

校訓

学不厭教不倦

(学んで厭かず、教えて倦まず)

生徒は学んでも飽きていやがることなくさらに多くを学ぶ態度をとり、教師もまたその指導に満足して怠ることなく、共に研鑽し合う師弟同行の教育環境を創ることに努めることを理念としています。

ミッション

グローバル・マインドを持ち、21世紀のリーダーとして国際社会の平和と発展に寄与する人材を育成する。

